

言語聴覚士は圧倒的な人材不足。 有資格者は引く手あまたです。

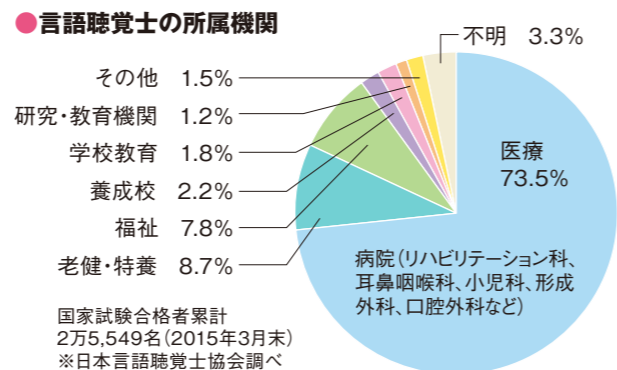
社会的ニーズの高い言語聴覚士の就職事情や本学科の教育の特色について、本学科の苅安教授が語ります。

医療機関や福祉施設などへ。 ニーズは今後さらに高まるでしょう。

言語聴覚士は、ことばと聴こえ、飲み込みの評価・訓練・指導の専門家です。対象となる患者さんは日本に650万人以上いると言われますが、言語聴覚士の有資格者は2015年3月時点で約2万5千人。圧倒的に人材が不足しており、深刻な問題となっています。今後は社会の高齢化と小児医療の拡充が進むなかでさらに対象患者数も増加することが予想され、病院やリハビリテーション施設などからのニーズはますます高まっていくでしょう。また、言語聴覚士は夜勤や残業が少ない勤務スタイルが特徴で、育児なども含めて家庭と両立しやすく、女性にとっても働きやすい職業といえます。

こうした社会的要請に応えられる言語聴覚士を育てるために、本学科では4年間をかけてじっくりとステップアップしていけるカリキュラムを用意しています。理論を実践のなかで確認できる講義・演習、多彩な道具、機器と施設を利用した実習、また段階的に学んでいける臨床実習など、専門的な知識とスキルを無理なく身につけられます。4年生では集中的な国家試験対策を行い、国家試験合格率100%をめざした充実のサポート体制を整えています。

高い学習意欲を持って取り組めば、必ず言語聴覚士になれる。そのような学習環境をつくりました。言語聴覚士になりたいという高い志を持って入学し、この素晴らしい環境を活かしてほしいと願っています。



京都太秦キャンパスの充実した施設を、高度な学びに活用します。

聴覚検査や音声検査用の防音室をはじめ、学生と教員がマジックミラーを介して評価・訓練の様子を見るモニタリングルーム、子どもとの関わりを想定したプレイルームなどを設置。これらの最新施設をスキルアップに活かします。



聴覚検査室



演習室

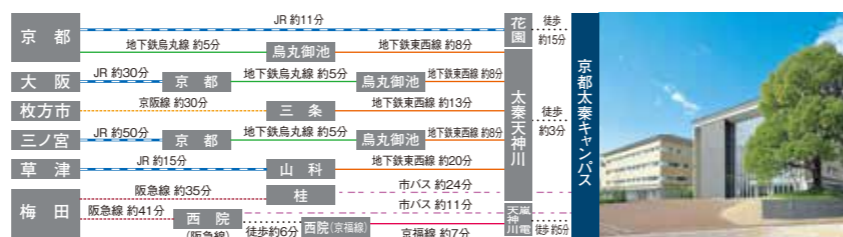


共同研究室



すべては学生のために。

http://www.kyotogakuen.ac.jp/
【入試に関するお問い合わせ先】入学センター
TEL 0771-29-2222
E-mail nyushi@kyotogakuen.ac.jp
〒615-8577 京都市右京区山ノ内五反田町18
TEL 075-406-7000(代表)



ことば・聴こえ・飲み込みの
問題に取り組む医療の専門家。
柔軟な対応力が求められる仕事です。

あなたの
一歩を見つめています。

さまざまな医療機関が、
社会的ニーズの高い言語聴覚士。

どんな仕事？

言語聴覚士って、





【発声発語・嚥下障害】

うまく話せない、飲み込めない、声とのどの問題に取り組めます。

●内視鏡検査

耳鼻咽喉科の医師が行う内視鏡検査。言語聴覚士も立ち会い、声帯の状態とその運動を確認します。本学科では医師教員による、内視鏡検査の実習が可能です。



●在宅訪問

看護師や医療ソーシャルワーカーとともに、自宅でのコミュニケーション方法や食事介助の方法を指導します。

【チーム医療の現場で】

医師や看護師などと連携。チームの一員として働くことも。



●カンファレンス

医師や看護師、理学療法士、作業療法士など医療専門職と協働し、症例の評価や取り組んでいる治療法などを話しあい、適切なアプローチをチームで考えます。

【高次脳機能障害】

脳卒中による失語症や認知症などの問題に対応します。



●言語検査

失語症の検査。「クンを鏡の上に置いてください」といった言語聴覚士のことばだけを聞いて、テーブルの上に置いてあるものを患者に動かしてもらいます。



●集団訓練・個人訓練

認知症や失語症の患者を対象に、記憶やことばを引き出すためのトレーニングに取り組みます。

言語聴覚士ってどんな仕事？

言語聴覚士は言語、発声、発語や嚥下などの異常に対応する医療の専門家です。しかし、実際に言語聴覚士がどのような仕事に取り組んでいるのか、具体的にイメージできる人は少ないでしょう。ここでは、言語聴覚士の日常の風景をいくつかピックアップ。

病院やリハビリテーション施設、老人保健施設などで、ことば・聴こえ・飲み込みの問題に対応する医療の専門家です。



探検家は冒険が大好きだ

早口で3回繰り返して!

●音響分析 患者の声や発音の時間周波数を分析。音声の問題を客観的に評価します。



●口腔顔面観察

発語器官の形態と口の中の様子をチェック。麻痺の有無などを確認。



●ベッドサイド評価

3ml程度の水を注射器で患者の口に入れ、むせたりしないか、飲み込みの状態を調べます。



音が聴こえたらボタンを押してくださいね

●聴力検査(脳波)

耳から脳まで音の信号が伝わっているか、機器を用いて測定するABR(聴性脳幹反応)検査です。音が聴こえたか返事のできない乳児や高齢者などにも行います。

●聴力検査

聴こえないのか、聴こえているけど話せないのか、聴力検査は基本的にすべてのケースで実施します。



●子どもの聴力検査

ヘッドホンから音が聴こえればボタンを押す、すると机の天板の下にある汽車が動く、といった子ども用の検査機器を使用。本学科の聴力検査室にも精密な機器が備えてあります。

【子どもの診察・検査】

0歳児にも起こる諸問題。年齢に応じた対応が必要です。



こっち!

どっちの形かな?

●子ども言語検査

絵や型はめなどを使い、遊び感覚で取り組める内容の課題を行います。

【聴覚障害・言語発達障害】

ことばの発達の遅れや聴こえの障害に対処します。